

あいホール図書だより

あいホールでは、男女共同参画に関わる本を収集、貸し出しています。皆さまのご利用をお待ちしています。

2023.5

6月はプライド月間 ～LGBTQについての理解をアップデート～

6月は世界中でLGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティやそのコミュニティを称えとともに、権利を啓発するためのさまざまなイベントが催される「プライド月間」。6月11日には、浜松で初めて「はままつレインボープライド」が開催されます。あいホールでも5月20日に「I Am Here - 私たちはともに生きている -」（ドキュメンタリー映画）の上映会と関連展示、3階には、「トランスジェンダーのリアル」の常設展示もあります。6月を前に、セクシュアル・マイノリティについての理解をアップデートしませんか？

『あいつゲイだって
アウトィングは
なぜ問題なのか？』
松岡宗嗣 著、柏書房、2021年



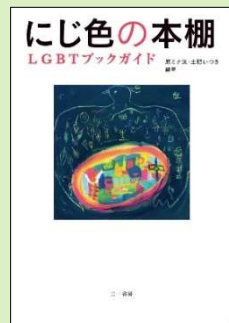
誰でもやってしまうのではと思われる「アウトィング」。2015年に大学生が自ら命を落としたアウトィング事件の経緯を追いながらその問題についてつづられています。

『みんなの研究
女子サッカー選手です。
そして、彼女がいます』
下山田志帆 著、偕成社 2022年



性的指向、性自認、性表現はみんな少しずつ違っていて変化もする。自分はどうなセクシャリティなのだろうと考えることのできる本。「こうありたい自分」を生きるための著者からのメッセージです。

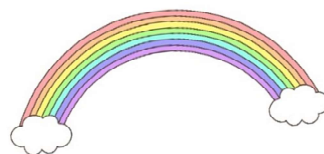
『にじ色の本棚
- LGBTQブックガイド -』
原ミナ汰、土肥いつき 編著、
三一書房、2016年



46人の執筆者が、影響を受けた本とその本との出会いを紹介しています。セクシャル・マイノリティ当事者、非当事者、支援者どの立場であっても読者の「知りたい」に叶う本が見つかるはずです。

『だがし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか？』

多屋光孫 作、汐文社、2022年



レインボーカラーはLGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティのシンボルカラーです。

絵本
2冊紹介

『ぼくらのサブウェイ・ベイビー』

ピーター・マキューリオ 作、レオ・エスピノーサ 絵、北丸雄二 訳、サウンズブックス社、2022年

あいホール図書利用案内

あいホール図書コーナーでは、運転免許証などの身分証明書をお持ちいただければ、その場で利用登録ができます。あいホール休館日は、ご利用できません。

利用時間 9:00～21:00
貸出期間 2週間（貸し出し無料）
図書・雑誌・紙芝居 1回につき3点まで
DVD等（視聴覚資料） 1回につき1点まで

DVD紹介



『ウェディング・バンケット』

アン・リー監督
台湾・アメリカ映画
1993年制作

自身がゲイでありながらグリーンカードを欲しがる女性と偽装結婚したことから起こる事件を悲哀を込めて描いています。親へのカミングアウトをはじめ、結婚披露宴での会話、お祝いの行為、余興などさまざまな物事が、主人公の視点を通すと画一的な固定観念にしばられていることに気づき、華やかな祝宴が、妙に寒々しく感じられます。

新着図書から

『クィア・ヒーローズ

世界を変えた56人のLGBTQヒーローたち』
アラベル・シカルディ著、
サラ・タナト・ジョーンズ イラスト
市ノ瀬美麗 訳 ジーオーティー、2022年

クィアであることの困難に屈せず、ヒーローとなった歴史上のあるいは今を共に生きる人たち。誇るべきクィアを鮮やかなイラストとともに紹介しています。



新着図書は
こちらから



ほぼ毎月更新!

あいホール 浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター

〒433-8123 浜松市中区幸3丁目3番1号

TEL: 053(412)0351 FAX: 053(412)0377

Mail: info@ai-hall.com URL: <https://www.ai-hall.com>

浜松駅バスターミナル13番乗り場 50番

市役所山の手医大行き「あいホール」下車徒歩1分

※有料駐車場有(100円)

コミック紹介

『I S (アイエス)

～男でも女でもない性～』全17巻

六花チヨ 著、講談社、2003～2009年

男でも女でもない性「I S」の主人公をオムニバス形式に描いたコミック。

2巻～17巻はI Sとして生まれた「春」が主人公。戸籍は女性。中学では男の子として過ごし、高校では女性であることをよぎなくされてしまいます。

体の変化と性自認の揺らぎの中で「I S」として生きていきたいと葛藤する主人公とそれを取り巻く人々の物語です。



『笹森くんのスカート』

神戸遥真 著、みずす 画、
講談社、2022年

ジェンダーフリー制服が学校で導入され、スラックスかスカートか自由に選べるように。ある日、笹森くんはスカートをはいて登校します。「イメチェンか？」と軽く聞く子、性的マイノリティだろうと配慮を周りにも押し付けようとする子、笹森くんを好きだったけど好きじゃなくなった子、当の本人は、「はいてみたかっただけ」と言うのですが。笹森くんのスカートをきっかけに周りの子たちのサイドストーリーが動き出します。もし、スカートを翻して自転車にのる男の子を見かけたらどんな事を想像しますか？

